

☆5月・6月・7月・8月の活動☆

採集観察会のお知らせ 八王子城址

第一回 5月21日(日) 午前10時集合。(14日予定を変更しました)

集合地点: JR中央線 高尾駅 北口 雨天決行

(JR中央線 新宿より特快で42分. 快速55分) 詳細別記

第二回 7月16日(日) 午前10時集合。(再案内しませんので御承知を)

世話人は新海明 (TEL. 0425-22-2605) ・板倉泰弘 (TEL. 0474-82-8921)

キシノウエトタテグモ探集会

期日・所 6月17日(土) 午後3時~6時 東京大学本郷キャンパス構内

集合地点 東京大学 赤門前(時間厳守) 雨天決行

交通 JR中央線お茶の水駅(お茶の水橋口=四ツ谷駅側)より

都バス 荒川土手・駒込・王子行きに乗車, 「赤門前」下車

営団地下鉄 丸の内線「本郷三丁目駅」下車, 徒歩8分 趣意別記

合宿のお知らせ

期日・所 7月29日(土)~31日(月) 愛知県東加茂郡足助町

申し込みは板倉泰弘まで。連絡先・詳細は別記

集合: 7月29日, 14:00 名古屋鉄道「東岡崎」駅。バス・ターミナル6番線前

採集観察会案内

今年度は12年ぶりに東京八王子にある八王子城址で行います。前回(1977-1978), ここでは実に173種のクモを記録しました。干支(えと)を一巡した今回は, さてどれぐらい採集できますか。奮って御参集下さい。

第1回5月21日(日) 第2回7月16日(日)  
第3回10月22日(日) 第4回2月18日(日)

交通: JR中央線 新宿より特別快速42分 快速55分(530円), 立川より 17分(290円)  
八王子より 6分(150円)

京王線 新宿より特急45分(310円)

遅れた人は, 高尾駅 北口 甲州街道沿い 西東京バス (2) 造形大行き乗車, 約10分(150円), 終点下車。バス停わきに案内板あり。(新海明記)

キシノウエトタテグモ探集会

「去ル三月一日ハ実ニ我が大学ノ記念日ナリシ而シテ此日復タ蜘蛛学(Arachnology)ノ記念日トナレリ, 何トナレバ此日初メテとたてぐもノ完全ナル標本ヲ得タレバナリ」(岸上鎌吉, 1889. とたてぐも. 動物学雑誌1(6):154-159.)より。

1889年の3月1日に, 日本で初めてキシノウエトタテグモの完全な標本が, 東京大学の構内で岸上鎌吉氏によって採集されました。それからちょうど100年, キシノウエトタテグモは今でも東大構内に生息しているのでしょうか, あるいはすでに絶滅してしまったのでしょうか。

そこで上記の様に, 100年ぶりに同じ東大構内においてキシノウエトタテグモを探す観察会を計画しました。ふるって御参集下さい。

なお, 遅れてくる人は4時と5時に係の者が迎えに出向きます。その時刻に赤門にいて

下さい。

午後6時から東京大学農学部（本郷キャンパス隣側）1号館2階・林学科会議室において講演・談話会を行います。こちらにもお立ち寄り下さい。

講演予定は牧孝匡氏「キシノウエトタテグモの生活史」、新海明氏「トタテグモの生活史概説」、宮下直氏「東大と岸上鎌吉氏のこと」。（担当・新海明）

### ☆宿舎案内

※集合地点；車の人は直接宿舎へ（宿舎で板倉が待っています。交通不便な所なので、車使用が便利です）。電車の人は名古屋鉄道「東岡崎」駅、バスターミナル6番線前。緒方さんが案内してくださる予定（当駅へは新幹線「豊橋」駅下車、名古屋鉄道の名古屋本線に乗り換える。名鉄電車には「特急」「高速」「急行」「準急」「普通」とありますが、前の3種類が便利です。ただし「特急」は特急料金を300円取られます）。

バスは「足助」行きに乗り、「白鷺温泉口」下車 ○行き方（バスの場合）  
車、運賃¥840。

※宿舎「白鷺館」（愛知県東加茂郡足助町追分 TEL. 0565-62-0151）。

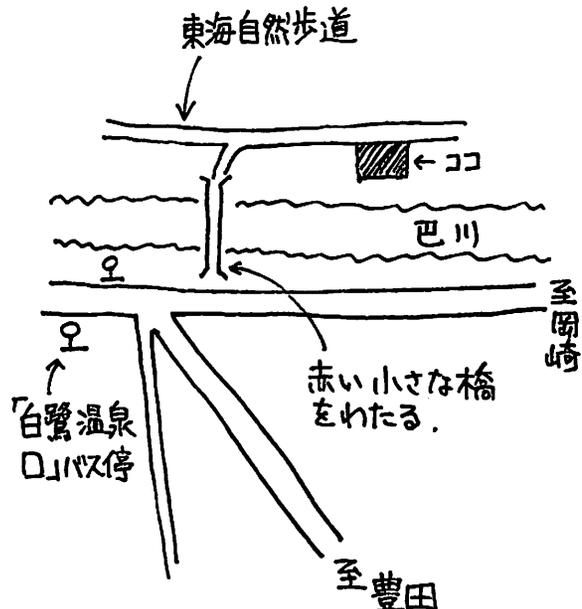
車で行かれる方には後ほど行き方を連絡します。

1泊2食付¥7000（超破格値段！）  
弁当¥500。

※費用；3日間で¥17000くらいになると思います（交通費は除く）。

温泉につかって、アユを食べて、トリノフンダマシ・トタテグモ・シノビグモ等が見られます。

申し込みは 〒276 八千代市  
八千代台北16-22-6 板倉泰弘  
へハガキで7月10日まで。期日厳守。



例会／総会の報告 1989年4月23日（日） 10時～20時。大橋区民会館にて（大橋区民会館は改修のため閉館となります。改修後は集会室規模から考えて適当な場所ではありませんので、例会用の新たな会場を物色中です。会場として適当な場所を御存じの方、至急事務局まで御連絡下さい）。 司会・谷川明男。

（1）午前の講演 10時半～12時

谷川明男「メキシコで見たもの」。1988年7月～8月、北米カリフォルニア州ラ・パスとメキシコのフォルティン、パレンケ等を観察採集旅行した結果、サソリ、ウデムシ、ヒヨケムシの他、オオツチグモやメダマグモ、Micrathenaなど代表的なクモ類を観察できた（谷川明男，1989，メキシコのクモ網観察記録。メキシコ海外研修報告書。神奈川県高等学校教科研究会理科部会の報告あり）。

新海明「カネコトタテグモの扉は両開戸（観音開き）か？」。吉倉（1987）には日本のカネコトタテグモの戸とアメリカの同属の戸は異なるという記述があるが、これはCoyle（1971）の論文に「衿（collar）状」とあるために「両開戸（folding door）」とは異なる

ものと判断したことによっている。文献調査と野外調査によって、日米のこの属の戸は同じ構造であることがはっきりした。

中山美和・稲葉茂代・池田博明「メガネヤチグモの求愛と交尾後ガード」。メガネヤチグモの生活史は小松敏宏(1942)に詳述されているが、昨秋の観察・飼育によると交尾体勢(腹面向い合わせではなく、オスはメスは横抱きにし、背中側から触肢をまわす)、交尾時期(早春ではなく晩秋)で異なる結果を得た。この他、オスの交尾後ガードを確認した。メスは交尾後、数日は他のオスの求愛も受け入れるが、その後は拒否する。

(2) 記念写真, 昼食

(3) 総会 13時半～15時10分。議長・松本誠治

昨年度の活動報告; 町田市の野津田公園にて4回の採集観察会, 真鶴合宿, 会誌56号・57号発行, 通信62-65号発行, 例会6月, 合同例会11月。

決算報告; 仮承認されましたが, きちんと監査が済み次第, 会員にお知らせします。

規約改正; 規約に洩れていた会計監査委員の条項を追加, 会費の具体的な額は別表扱いに変更。

今年度の活動計画・予算承認; 採集観察会や合宿は案内参照, 合同例会は11月26日の予定, 会誌KISHIDAIA58号は20周年記念号で復刻版付録, 59号は通常号, 通信は66-68号(5月, 10月, 2月)の3回発行を予定。予算案は別記参照。

(4) 午後の講演 15時20分～17時

池田博明「電気泳動によるクモの分析」。ポリアクリルアミドゲル・スラブ電気泳動による数種のクモのエステラーゼ・アイソザイムのパターンを紹介した。精子優先問題や系統分析への応用が今後の課題である。

新海栄一「最近撮れた珍しいクモと普通のクモ(3)」。ユアギグモ科の網(クモの体長0.7mm, メスに触肢がない), ホシヒメグモモドキの網, サヤヒメグモの網を確認・撮影した。蜘蛛をあしらった工芸品をスライドで紹介した(足利の栗田美術館, 諏訪の北沢美術館など)。

(4) 懇親会・記念撮影 17時～20時

萱嶋先生より日本蜘蛛学会宮崎大会準備の様子, 台湾の六亀にて栗林慧氏が新種と思われるゲホウグモを発見したお話を伺う。その後歓談。

参加者(五十音順) 阿左見正起・池田博明・磯部達男・板倉泰弘・稲葉茂代・小澤実樹・小野展嗣・萱嶋泉・熊田憲一・笹岡文雄・佐藤幸子・新海明・新海栄一・高橋祐子・谷川明男・露木由紀子・中山美和・萩本房枝・古浜隆・松本誠治。

観察会(野津田公園)報告 1989年2月19日(日)晴, 野津田公園にて。

参加者; 池田博明, 板倉泰弘, 稲葉茂代, 小野展嗣, 木村英二, 熊田憲一, 小峰光弘, 新海明, 高橋登, 谷川明男, 古浜隆, 本木洋子。「おでん」を10人前以上も背負ってきた萩本さんは道を失い, 3時間も迷ってしまい, とうとう合流できなかったという大悲劇が発生しました。おでん代は有志がカンパしました。

採集観察したクモの仮リスト(F♀成体, f♀亜成体, M♂成体, m♂亜成体, n幼体) 順不同; ウヅキコモリグモFmn, アライトコモリグモMn, ハンゲツオスナキグモF, アダンソンハエトリF, マミジロハエトリM, フクログモの一種FM, ヨダンハエトリF, ハリゲコモリF, メガネアサヒハエトリF, ヤマヤチグモF, イズツグモM, コアシダカグモm, ワシグモの一種fn, ネコハエトリf, [以下は幼体] アシナガカニグモ, アズ

マキシダグモ、ヘリジロサラグモ、チビアカサラグモ、ジグモ、アリグモ、ササグモ、キンイロエビグモ、カネコトタテグモ、ウロコアシナガグモ、クマダハナグモ、ハナグモ、ヤマジハエトリ、オオヒメグモ、シボグモ、ヤドカリグモ、カタオカハエトリ、イオウイロハシリグモ、ギンメッキゴミグモ、ゴミグモ、ヤリグモ、フタオイソウロウグモ、ハタケグモ、ムナボシヒメグモ、フジイコモリグモ、シモフリミジグモ、オナガグモ、ムナアカフクログモ、トラフカニグモ、イタチグモ、シャコグモ、スネグロオチバヒメグモ、オトヒメグモ、ヤマトコノハグモ

////////////////////

前号で依頼した1988年のクモ学トピックスを発表します(順不同)。投稿して下さいの方に御礼申し上げます。ちなみにこの企画は「余興」です。

1) 東京都にてツシマトリノフンダマシが採集された。

1988年7月6日、貞元巳良氏は高尾山の南、梅の木平付近で南方種の珍品ツシマトリノフンダマシを発見、採集した[E, A]。

2) 貞元氏、2日間でマメタイセキグモとムツトゲイセキグモを発見した。

そばに近づかれるだけで「緊張しすぎて思わずボロを出し、見つけられてしまう」と珍蛛たちに恐れられている貞元巳良氏は、1988年9月18日高尾山にてマメタイセキグモを、続いて9月19日に小下沢にてムツトゲイセキグモを発見、採集した。普通は「宝くじ採集(当たれば幸運)」に過ぎないのだが、氏の場合は「競馬必勝式採集」であるのが異なる点だ。まさに「取りに行く」のである。その勝率たるや如何。しかし昨年採集した数多くの珍蛛の中で一番感激したのはオダカグモであったとのこと、氏にもまだ弱点があったようだ。[A, E]。

3) ムツトゲイセキグモのオスが久々に発見された。

ここ数年来、ムツトゲイセキグモが連続して出現している五日市の広徳寺で新海明・新海栄一氏は7月25日に8年ぶりにオスを発見、採集した。トリノフンダマシ類と同じノミの夫婦である。また、オスの捕食習性もトリノフンダマシ類と同様で網を張らずに脚を上げて、そばに近づく昆虫を捕らえているようである。標本は新海栄一氏が所蔵。この標本は現時点では日本では2頭目のものである。ちなみに1頭目は1980年に千葉県において安藤博司氏採集[A]。

4) 三重県海山町にてユアギグモの網が確認された。

日本蜘蛛学会名古屋大会に出席後、新海栄一・小野展嗣・池田博明の三氏は紀伊半島へウシオグモを採集にでかけた。目的のウシオグモの採集は不発に終わったものの、1988年8月23日に三重県の海山町(尾鷲市の手前)で夜間観察中の新海氏は見慣れない目の細かい小さな水平円網を発見、網の撮影に成功した。こしきにいた微小なクモを採集して確認したところ、このクモはユアギグモの一種(*Symphytognatha* sp.)と判明した。網は横糸がきわめて多く、こしき部の形が大変に特異的である。新海栄一氏によって近く発表の予定である[E, A]。

5) 三重県海山町にてホシヒメグモモドキ、サヤヒメグモの網が確認された。

同夜、新海栄一・小野展嗣・池田博明氏はホシヒメグモモドキの不規則網(コガネヒメグモの網形に似ている)、サヤヒメグモの網を確認した[E]。

6) アリ卵を食べるクモが確認された。

1988年6月、稲葉茂代氏はワシグモの一種を飼育中にアリ卵を食食することを発見した(

「通信63号」「KISHIDAIA57」参照。[E]）。

7) 小野展嗣氏の労作「カニグモ科総説」が発行された（「通信65号」参照。[E]）。

8) コガネヒメグモの吐き戻し給餌の映画撮影に成功した。

日本では吐き戻し給餌が確認された種類は知られていなかったが、新海明氏はコガネヒメグモで給餌例を発見していた。このたび、新海氏はネイチャー・シネプロダクションの吉田嗣郎・伊藤浩見氏との共同で、その様子を見事にビデオ・フィルムに収めた。1988年9月7日に静岡県駿東郡小山町須走で撮影に成功。母グモの動きや子グモの動きがよく分かる傑作[H]。

9) メガネヤチグモの交尾（交接）後ガードを確認した。

1988年11月、池田博明氏は交尾後のメガネヤチグモのオスがメスの住居の入口でメスをガードしているのを発見、中山美和・稲葉茂代氏が追加実験をして確認した。このような交尾後ガードはメガネヤチグモの特異な習性を解く重要な鍵となりそうである[H]。

10) アオグロセンショウグモとヘヤチリグモが日本のファウナに入った。

熊田憲一氏は神奈川県横浜市の京浜工業地帯の埠頭・万年堀から採集したチリグモに別種のメスを発見、ヘヤチリグモ *Oecobius cellariorum* (DUGES, 1836) と同定して発表した。チリグモとは生殖器が異なる (Atypus 91)。谷川明男氏は宮城県伊豆沼の調査で小さい *Ero* 属を発見、アオグロセンショウグモ *Ero cambridgei* KULCZYNSKI, 1911 と同定して発表 (Atypus 92)。腹部はやや紡錘形で肩（センショウグモより前方）に突起あり[H]。

11) クロマルイソウロウグモが関東各地で相次いで発見された。

クロマルイソウロウグモの採集記録は関西（三重県）以西に限られていた。しかし、1986年に千葉県清澄山で大量に発見されたのに続き、1988年には神奈川県秦野市、静岡県伊豆半島において相次いで発見された。ほとんどがオオヒメグモの網から見つかっていることから、今後注意深くオオヒメグモの網を調べれば、関東各地でも続々と発見されるのではなからうか[A]。

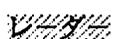
12) コオニグモモドキの網と捕食習性が確認された。

造網性クモ類の中にあって久しくその網形が分からなかったコオニグモモドキの網と捕食習性が、1988年7月に長野県菅平高原において谷川明男氏によって確認された。このクモは夜間に葉裏に二本の糸からなるV字形の網を張り、その中央に吊り下がりそばに来た昆虫をつかみ捕らえるという。外国では、このような習性を持つコガネグモ科のクモは知られていたが、日本では初めての記録である[A]。

13) キシノウエトタテグモの生活史の全容がほぼ解明された。

トタテグモ類の生活史に関してはキムラグモやジグモなど一部のものを除いて、大部分が不明であった。ここ数年来、キシノウエトタテグモの飼育を通じてその生活史を追っていた牧孝匡氏は約5年にわたる調査結果をまとめられた。これによって、産卵・成長・脱皮・求愛・交接など大変に興味深い生活内容が半明した。詳細は近く学会誌に発表予定とのこと[A]。

寄稿者 E=新海栄一, A=新海明, H=池田博明。



クモ毒研究の新たな展開

松本誠治・池田博明

『現代化学』1989年3月号に中嶋暉躬・川合述史両氏が「クモ毒 その構造と作用」という論文を寄せている (pp48-55)。これまで、クモ毒に対する関心といえば、致死的な毒の有無がもっぱらであったが、この論文によれば現在の研究者の関心はまったく異なって

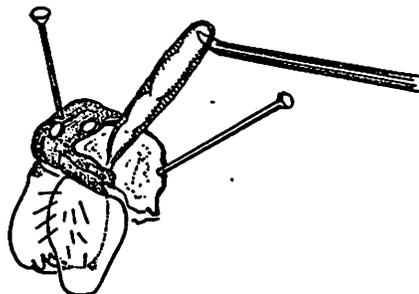
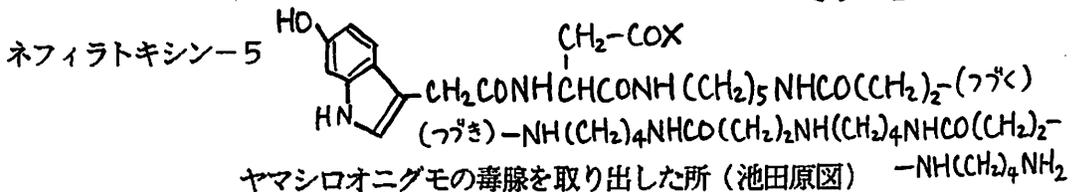
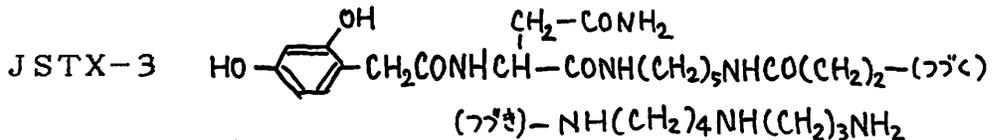
いる。近刊の『クモのはなし』（技報堂出版）で、池田はクモ毒研究には毒グモばかりでなく普通のクモの毒研究での系統調査や、神経系の研究のツール（道具）としての使用の研究があると指摘しているが、すでにその方面の研究は盛んで、研究者たちはしのぎを削っているのであった。その勢いは1986年・1987年の2年間で20種にもものぼるクモ毒が解明されるほどである。この中嶋・川合論文をダイジェストしてみよう。

川合はジョロウグモの毒素が神経接合部でグルタミン酸の働きを阻害する作用を持つことを発見し、この毒素をJSTX (Joro Spider Toxin)と命名した。その後、この阻害作用はグルタミン酸のレセプター（受容器）に結合することによって起こることが分かった。NMR測定による化学構造の解明が進んで、JSTXはポリアミンとアミノ酸が結合した変わった形であることも分かった。アミノ酸の一種アスパラギンの末端には2,4-ジヒドロフェニルキシ酢酸が結合しているが、このような構造は動物では珍しい。また、その分子内にはプトレアニンという作用の未知のアミノ酸が組み込まれていた。

さらにジョロウグモ毒にはアレルギー性ショックを起こす別の物質があり、筆者らはこれをネフィラトキシン（ネフィラはジョロウグモの属名）と命名した。加水分解した断片から分子内での配列を推定する方法で、ネフィラトキシンの化学構造も判明した。JSTXとは若干異なり、末端に6-ヒドロキシ・インドール酢酸が結合し、プトレアニンが繰り返し結合していた。

同時に化学構造の明らかな合成品による生物検定から、構造と機能の関係も次第に判明しつつある。ある種の芳香核を持つ酢酸誘導体（ジヒドロフェニルキシ酢酸やヒドロキシ・インドール酢酸のこと）とそれに続く直鎖のポリカチオン性部分があれば、グルタミン酸受容体を非可逆的に阻害する（標本を洗っても阻害が回復しないということ）ようだ。構造と機能が判明すれば、新しい医薬・農薬の開発も可能かもしれない。

クモ毒は、いまや世界の神経化学研究者の熱いまなざしを受けているのである。



~~おたよりの一部を紹介しませ~~

- ◆石野田辰夫氏（宮崎県日向市）；通信，拝受。有難うございます。とても盛沢山で嬉しく思います。さすがは若い皆さんだ！そのエネルギーに敬服しています。感謝！ 2.14
- ◆松本誠治氏（東京都小平市）；小学館のBE-PAL, No.93, '89年3月号（19巻3号）を購入、あるいは立ち読みして下さい。新海栄一さんが出ています。これでクモ愛好者が増えてくれるとうれしいですネ。 1989.2.21
- ◆佐藤幸子氏（神奈川県横浜市）；今年になってヤッと風邪を卒業しました。只今は『カワリノコギリグモの生活史』を一生懸命まとめているところです。 1989.2.12.
- ◆板倉泰弘氏（千葉県八千代市）；やっと大学を卒業しました。卒論もなんとか提出でき、皆様のおかげだと思っております。 1989.3.23 （4月より東邦大学研究生）
- ◆新海明氏（東京都立川市）；高校を退職して早1年。ヒマはあれども金はなし、といった典型の生活となりました。近場の清澄・富士山そして高尾方面で調査を続けるつもりです。宿泊も可能ですので興味のある方は是非どうぞ。 1989.2.
- ◆近藤昭夫氏（千葉県船橋市）；文部省，国立大学が入試制度をいじくりまわすので私大は振り回され放し。今期の入試からは一週間ほど前に解放されたばかりです。四月に入るとすぐ新入生のガイダンス，実習に追いまくられます。久しく皆様に会っていませんのでバテなければ昼頃突然会場に？ 1989.3.31
- ◆八木沼健夫氏（大阪府大阪市）；4月になってからでないと，はっきりしませんが今のところ，出席したいと考えています。いづれ決まり次第連絡申し上げます。今回退職記念論文集の刊行計画があり，西川さんが骨折って下さっています。研究室はすっかり明け渡しました。今持ち帰った書籍の整理に追われています。私の後任者として加村隆英氏が決定しました。同じクモなかなので心強いです。皆様によろしく。 1989.3.31.
- ◆加村隆英氏（大阪府高槻市）；4月1日付で追手門学院大学に勤務することになりました。今後ともよろしく願い申し上げます。 1989.3.26
- ◆中平清氏（高知県吾川郡）；昨年は新海栄一さん，加藤輝代子さん，菊屋奈良義さんからTVを通して，大変良い勉強をさせていただきました。今年もこのようなことが与えられれば有難いと思っています。こんなことを言うと思われるかもしれませんが，私たちの近未来の子孫たちが，宇宙人類へと脱皮するであろうことを夢見て楽しみにしています。クモを見る楽しみを捨てるわけにはいきませんが。 1989.2.14.
- ◆井上（萩本）房枝氏（神奈川県横浜市）；元気です。採集会に参加された方へ，大変申し訳ございませんでした。本当にごめんなさい。 1989.3.
- ◆笹岡文雄（東京都豊島区）；ここ2ヶ月ほど私事でゴタゴタしていて，クモに手が回らない日々が続いています。 1989.3.6
- ◆その他，出席者以外では千国安之輔氏，宮園真理子氏よりお葉書を頂戴しています。次号67には合同例会用葉書を同封致します。ふるってお便り下さい。

~~現/々/々/々/々/々~~ わくわく動物ランドにクモの飛行の映像

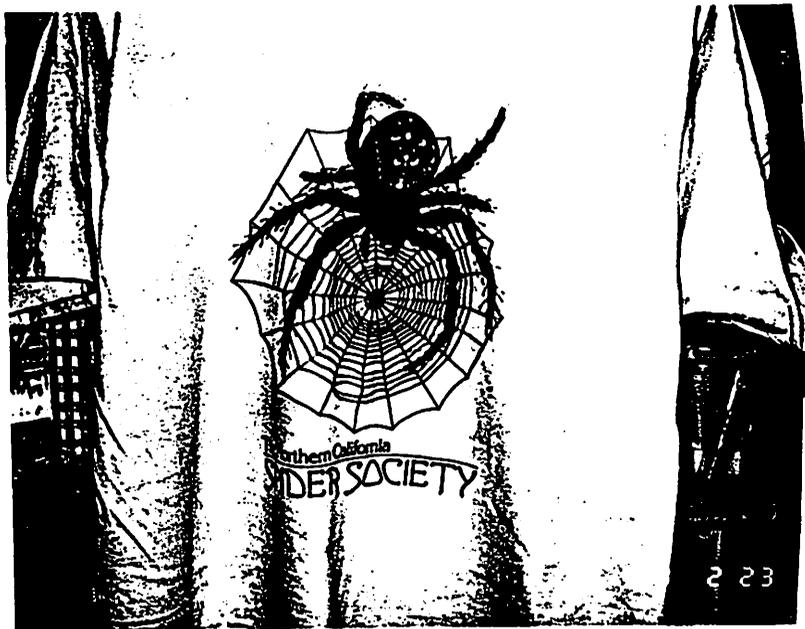
1989年5月3日（水）TBSテレビ、『わくわく動物ランド』に新海栄一さんが登場，クモの糸の使い方を説明されました。（1）隠れ家・わな，（2）捕獲，（3）卵のう，（4）しおり糸，さてあとひとつは？というのが設問です。正解は「飛行」。ムツボシオニグモやハナグモ，コモリグモの飛行の様子が見られました。映像はネイチャー・シネプロの吉田嗣郎・伊藤浩見氏撮影のもの。『雪迎え』（三省堂新書）の著者・錦三郎氏のフィール

ドである山形県南陽市の白竜湖も画面に登場してきました。一度にたくさんの糸を流して、風にのるところ、しおり糸を持ったまま飛び立ち、うまく風にのった時にしおり糸を切るところ、体が重いために枝先から、離れた瞬間にいったん下がるところなどがよく捉えられていました。うまく風にのれない時にはしおり糸をたぐって元の枝に戻ってくるのだそうです。飛行の時にこのようにしおり糸を使用していることは今回の映像から分かったということです。

解答者の中で小林亜星・中村吉右エ門両氏は、クモが移動のとき糸を流して「飛ぶ」ことを知っておられました。クモの飛行やゴッサマーのことはハドソンの『ラ・プラタの博物学者』やダーウインの『ビーグル号航海記』にも印象的に書かれています。ともに岩波文庫に収録されています。

なお、新海さんはクモの網をデザインしたネクタイをしておられました。

『わくわく動物ランド』では、そのうちに「コガネヒメグモの吐き戻し給餌」も放映されるかもしれません。御期待下さい。（池田記）



南カリフォルニア  
クモ同行会  
のTシャツ  
(八木沼  
健夫氏が  
Mr. Vincent  
から譲られ  
たもの)

2 23

### 蜘蛛の巣

(1) とんだ間違い。

1989年2月21日(火)午前9時10分頃、NHKラジオ第一放送で守本陸也氏が視聴者の虫の質問に答えるコーナーで、主婦が写真同封で尋ねた事に関する答。アナウンサー「これは私、知っていますよ。」土蜘蛛」といっていましたが、守本氏「ええ、”袋蜘蛛”というクモですね。袋になっているでしょう。このクモは巣は張らないんですね。虫を取る時は、袋から出て、歩き回ってつかまえるんです」。アナウンサー「そうと途中で切れないように引っ張り出すのを子供頃によくやりました」。守本氏「トタテグモという戸を作るクモがいますが、そういったクモに近い仲間ですね」。アナウンサー「虫でなく、こ

れはクモなんですよ」。

ここで話題になっているのはもちろん「ジグモ」である。フクログモという別の仲間がいるので守本氏の表現は誤りだし（俗名ではあるが）、ジグモの餌の取り方は袋の中からかみつくという方法だから、この点でも誤っている。アシナガバチの著名な研究者である守本氏でも、専門でない動物群については、うっかり間違いをしてしまうのである。私達もクモ以外の他の動物群については非常識な間違いを平気でしてしまっているかもしれないと、改めて思い返した。（池田記. 1989. 2. 22）

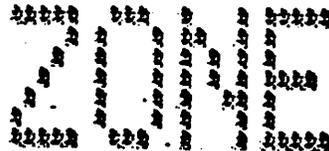
### （2）蜘蛛の登場する怪談。

『江戸怪談集（上）』（岩波文庫）には『宿直草（とのいぐさ）』より「蜘蛛、人をとる事」「百物語して、蜘蛛の足を切る事」の2篇が収録されていた。前者は拝殿で座頭変じて蜘蛛となり、旅人をからめ取る話、後者は百物語の最後に天井から差し出された手を切ったら蜘蛛の足であったという話。同じく『江戸怪談集（中）』には『曾呂利物語』より「足高蜘蛛の変化の事」、『伽婢子（おとぎぼうこ）』より「蛛の鏡」（カバー絵にも使われている）の2篇が収録されている。前者は本文中には足高蜘蛛という語はないが、「かかる物も、星霜経れば化け侍るものとぞ」と老婆に化けて男に笑みかけたクモが切られる話、後者は険しい谷に三尺ばかりの鏡（実はクモの化身）を見つけた商人が、それを得ようとするとクモに捕えられてしまう話。ちなみに、下巻は未刊。（池田記. 1989. 5. 3）

### （3）ゲームタイトルにクモ。

PC98用のゲーム・ソフトの「DANGER ZONE」の文字を取り巻くのはクモのデザイン。

いかにも危険というわけでしょうか。（小池. 1989. 1. 24）



Kienuki 1983

### テジー (Tejjy) の正体

小型のハエトリグモ。網を張らずにジャンプして獲物をとらえる習性を持つありきたりの蜘蛛。セバルベダ・キャニオンの閉鎖寸前の療養所に断酒目的で入った作家ウェイドがつけたハエトリグモの名前。

「テジーよ、わたしの具合がわかっているのなら、うるさく訊くな、とそこにくそつたれに教えてやってくれ」ベッドの男が吐きだすように言った。いまいまげな、はっきりした口調だった。

「テジーとは誰です？」ヴェリンジャー医師がおさえた声でたずねた。

「わたしのスポークスマンさ、その隅にいるだろう」

「小さなクモしかいませんよ、芝居はおよしなさい。ウェイドさん」顔をあげてヴェリンジャー医師は言った（『長いお別れ』19章）

療養所に忍びこんだマーロウ探偵が、病室の窓から見た光景。

（各務三郎編、『チャンドラーの仲間たち』Tの項、「EQ」69号、光文社）

会誌編集：谷川明男 〒223 横浜市港北区新吉田町1523 TEL 045-541-2294

通信編集：池田博明 〒258 足柄上郡大井町金手1099 TEL 0465-82-2105

# 1989年度予算

収入	836,400	
会費	336,400	
一般 (2,800) × 118		330,400
学生 (2,000) × 3		6,000
20周年記念号作成補助	500,000	
支出	848,458	
刊行物作成費	706,000	
会誌58	600,000	
会誌59	100,000	
通信66~68	6,000	
發送・通信費	121,458	
会誌	78,400	
会誌58	310 × 140	43,400
会誌59	250 × 140	35,000
通信	21,136	
通信66~68	72 × 121 × 3	26,136
例会返信葉書	41 × 121 × 2	9,922
本部通信費	1,000	
事務局通信費	4,000	
編集通信費	1,000	
通信編集通信費	1,000	
事務費	4,000	
本部	1,000	
事務局	1,000	
編集	1,000	
通信編集	1,000	
消耗品	7,000	
前年度未処理	3,900	
その他	5,000	
通信發送手伝い報酬	3,000	
会誌發送手伝い報酬	2,000	

収支 -10,958

(赤字分は会費値上げ防止のためのプール金から補填する)

次年度繰越予定

  会費値上げ防止のためのプール金 285,501

1989年度予算は総会で承認されました。(1988年度決算は会計監査が済み次第報告いたします。)

## KISHIDAIA バックナンバー について

KISHIDAIAバックナンバーの販売をいたします。すでに在庫の無いものもありますので、申し込まれる方はご注意ください。また、部数の少ないものについては先着順にいたします。

11号	¥200	26-28	¥200	42	¥400	51	¥400
12	¥200	29-32	¥400	43	¥400	52	¥400
13	¥200	33	¥200	44	¥400	53	¥400
16・17	¥200	34	¥200	45	¥400	54	¥400
18	¥200	35	¥200	46	¥400	55	¥400
19	¥200	36	¥200	47	¥1000	56	¥400
20・21	¥200	39	¥400	48	¥400	57	¥400
22	¥200	40	¥400	49	¥400		
23・24	¥200	41	¥400	50	¥400		

### KISHIDAIAバックナンバーの申し込み方

葉書に希望のバックナンバーを明記の上事務局までお送り下さい。料金・送料は請求書と同封しますので、到着後確認のうえ郵便振替にてお払いください。

在庫の無いものにつきましてはコピーに応じますが、コピーの発送等につきまして少々時間を頂きます。

事務局：〒221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199 熊田 憲一

## 会費値上げ防止のためのプール金の設定について

会費が今の2,800円になって10年になります。1979年の総会で1,500円から一挙にほぼ倍に会費を値上げをしました。そのとき申し合わせ事項として“少しずつ何回も値上げしないで、今は高いかも知れないが、物価の値上がりなどを考えて、余った分は貯めておき、将来この会費で赤字になった時にそこから補填し、なるべく長く会費の値上げをしなくて良いようにしよう。”と言うものがありました。いろいろな理由で現在年会費以上の繰越金があります。そこで最初の申し合わせ事項の主旨に添って、この繰越金を今回会費値上げ防止のためのプール金として設定しました。

このことにより、本年からを運営する収入は純然たる会費収入のみとなるため、単年度での収支がよりはっきりすることと思います。これを1988年度を例としてみると、単年度会費収入が330,000余円、支出が350,000余円と20,000余円もの赤字となり、加えて当年度会費未納者が29名おり(81,200円)、合わせて100,000円以上の赤字となっています。これらは繰越金との相殺でその実態がはっきりしませんでした。これからはその点が改まり、会計状況が十分把握できると考えます。今年度も予算案で10,958円の赤字予算ですが、プール金の主旨を生かし、赤字を補填しています(現在の会計状態は一般会費3,000円と同等です)。

今後の会費値上げは、会費値上げ防止のためのプール金が無くなった時に検討するということになります。

このプール金になにかいい名称を付けてください。

あなたの案を事務局までお聞かせください。

# 会計だより

郵便振替口座

東京 7-74885 東京蜘蛛談話会

## △費受領 云

1989年2月～

(敬称は省略させていただきます)

1989年4月中旬

(一般2800円・学生2000円)

1987年(昭和62年)度

萩本 房枝.

1988年(昭和63年)度

本木 洋子・大久保 襄・萩本 房枝・瀬戸 康彦.

1989年(平成 元年)度

濱田 龍一・本木 洋子・野戸 章・松田まゆみ・笹岡 文雄・牧 孝匡・  
古内 栄一・大久保 襄・萩本 房枝・菅波 洋平・笠原須磨生・加村 隆英・  
増原 啓一・立川 晴二・大野 正男・石野田辰夫・千国安之輔・鈴木 勝浩・  
木藤 幸男・関下 俊英・佐久間良三・池田 博明・長島 忠義・八木沼健夫・  
中平 清・河又 和夫・利岡 匠・古浜 隆・松本 誠治・稲葉 茂代・  
高橋 祐子・新海 栄一・小野 展嗣・萱嶋 泉・日下部光代・

1990年(平成 2年)度

本木 洋子・田中 穂積・牧 孝匡・石野田辰夫・池田 博明・古浜 隆・  
板倉 泰弘(不足分完納).

寄付

例会参加者一同様(91円).

バックナンバー代領収

松田まゆみ・緒方 清人・山田三重子・新海明(一部).

## 会員移動

(退会)

村田 慎一(希望退会)・瀬戸 康彦(希望退会).

(住所変更等)

濱田 龍一:〒721 広島県福山市西深津町6-12-1

中国農業試験場生産環境部虫害研究室 0849-23-4100(代)

板倉 泰弘:〒276 千葉県八千代市八千代台北16-22-6

栄風荘202号室 0474-82-8921(早朝or深夜AM2:00までOK)

牧 孝匡:〒157 東京都世田谷区上祖師ヶ谷1-40-12-2B

古内 栄一:〒970-11 福島県いわき市好間町北好間字外川原25

緒方 清人:〒472 愛知県知立市山屋敷町東山10-6 0566-83-4474

宮園 真理子:〒181 三鷹市下連雀7-8-22 アリガ三鷹ハイソ 305

事務局(会計を含む)〒221 神奈川県横浜市神奈川区片倉町199 熊田 憲一  
領収証の必要な方は振替用紙通信欄にその旨お書きください.



# 「クモとクモのす」

## 県教育委員会賞

口和町立竹地谷小2年 二瀬 清美さん

### 巣壊されても卵を守る

### 母グモの行動に感動

「クモは捕まると、さげすまれます」といって、ママは嫌いなクモを飼った。ママは「クモは捕まると、さげすまれます」といって、ママは嫌いなクモを飼った。ママは「クモは捕まると、さげすまれます」といって、ママは嫌いなクモを飼った。

今年四月、児童十九人全員が各自テーマを決めて研究を始めた。二瀬さんは学校や自宅の窓、天井などにあるクモの巣に、たぐさの種類の異なる「とんがし」を付けて、クモがどうやって巣作りをするのかという疑問に挑んだ。

「一方に捕まっていたのは、一縷の希望」と感動は、母グモは必死に卵を守り、卵を産み付けたオオヒメグモが、巣を壊された時、どう反応を示すかだった。木の樫の巣を壊した時、樫の先に卵が付いた。母グモは必死に卵を守り、卵を産み付けたオオヒメグモが、巣を壊された時、どう反応を示すかだった。



'88・11月20日(日曜日)

受賞を喜ぶ二瀬清美さん(左)と担任の藤原ひとみ先生

読者 広島



小学校低学年のころ、夏休みの宿題の中に昆虫採集というのがあって下着にのってあった一つの楽しい宿題であった。標本を作るために、捕虫網を片手に野原をかけまわる。宿題のため、という大男気分があるから親に文句を言われることもない。

ある時、一生懸命になって集めた標本にどうしても、もう一種類加えたくてクモを入れたことがあった。大きなクモだった。腹部の黄色と黒の斑紋が美しかった。さすがに恐ろしくて触ることができず、捕らえた網の外から殺虫剤を打ちこんで、やっと標本を作りあげた。

けれどもやがて休みが終わわり完璧に作ったつもりその標本を母々として担任の教師に見せた時、全てが終わってしまった。「早く捨ててしまいなさい！クモは虫ではありませんよ！」という教師のひきつった声は今でも忘れない。その教師は女性だったのである。

「クモは虫ではない。このひと言のために、一体どれだけのクモが人間から不当に追害されてきたことか。

なぜクモは虫と呼べないのだろう。足が八本あるせいなのか、はたまた頭と腹

虫のささやき

3

クモ

織部 広介



が直結していて、胸がないせいかな。学問的にいくら止しくても、クモが虫の仲間ではなく、カニやエビの親戚であることなど、とても信じられない。クモは見栄えが悪いという点を除けば

人間にとってかなり有益といえる。彼らは生きたエサしか食べないから、日本の家にいるクモのほとんどが、家に住む害虫を食べていることになる。もっとも害虫という言葉を人間が勝手につけた差別用語ではあるが。

日本の民家にいるクモで最も大きいのはアシタカグモ。体長はセンチ・足を入ると十センチぐらいになる。である。このクモは木造の家ならどこにでもいる。そして、このアシタカグモがゴキブリの天敵ではないかと最近になって言われ始めた。お馴染みのクロゴキブリとアシタカグモの分布がほぼ同じであることが調査の結果分かったのである。

はっきりとした致績など確かめようもないが、クモを目の仇にして追いかける前に、なぜ家の中のゴキブリが、その家を乗っ取るほど増えないのか今一度考えてほしい。全国でクモ嫌いの奥様に下着はそっとささやきたいのだ。

